第13回あすなろ忌

2014年 4月13日(日) 午後2時～

会　場　カフェ　あすなろ
（高崎市鞘町　TEL.027-384-2386）
参加費　８００円　（資料＋コーヒー代）
問い合わせ　TEL.027-232-6251　（事務局・曽根）

第1部　講演　崔華國の国境の越え方

詩人　中村　不二夫

なかむら・ふじお

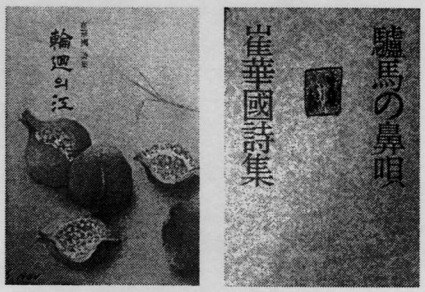
１９５０年、横浜市生まれ。詩集『Ｍｅｔｓ』（９０年）で日本詩人クラブ新人賞。詩集『コラール』（２００７年）で地球賞。詩論に『山村慕鳥論』など。詩誌『詩と思想』編集長、日本詩人クラブ理事長、会長などを務めた。

第2部　詩朗読　崔華國の詩「江」「逝く春を」を韓国語と日本語で読む

韓国語　詩人　李　美子

日本語　志村喜代子

黒川　初美



崔華國の韓国語第１詩集『輪廻の江』（１９７８年、左）と日本語第１詩集『驢馬の鼻唄』（１９７９年）

第3部　フリートーク　それぞれのあすなろ・崔華國

あすなろと崔華國

群馬交響楽団草創期の団員をモデルにした映画「ここに泉あり」に感動した崔華國（日本名・志賀郁夫）が１９５７年７月、高崎市本町（後に鞘町に移転）で始めたクラシック喫茶。「郷土を美しい詩と音楽で埋めましょう」を合言葉に、「生の音楽の夕べ」（２６０回開催）や、会田綱雄、茨木のり子、谷川俊太郎、吉原幸子ら多くの詩人を招いた「詩の朗読の夕べ」（１４０回）などを開催。さまざまな分野の人たちが集い、語り合い、議論し、刺激を受け合う「場」となった。１９８２年に閉店した。
それからおよそ３０年後の２０１３年６月、高崎経済大学関係者らでつくるＮＰＯ法人「まちなか教育活動センター」が中心市街地を活性化させる取り組みとして空き店舗となっていたあすなろの建物を使って復活させ、学生による運営が始まった。
「あすなろ忌」は、あすなろの試みをもう一度見直し、その精神を継承することを目的に、かかわりをもつ詩人、画家、元従業員人たちにより２００１年から毎年春、開かれている。